

会議の要旨（議事録）

会議の名称	平成29年度第2回勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会		
開催日時	平成30年2月19日(月) 13:30～15:30	開催場所	鳥栖市役所 1階第1会議室
出席者数	委員 6人 佐賀県 1人 事務局 5人	傍聴人数	1人
次第	(1) 平成29年度事業報告 (2) 今後の保存整備事業について		
配布資料	平成29年度第2回勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会資料		
所管課	(課名) 生涯学習課 (電話番号) 85-3695		

1. あいさつ

鳥栖市教育長

(1) 平成29年度事業報告

【事務局】

※資料に基づいて説明

【委員】

葛籠城跡地区の公有化は、27年度の終わりに3か年計画を5か年に変更されて進めているが、未だ公有化できていない土地は今後どうするのか。

【事務局】

今年度が5か年計画の最終年度で葛籠城跡地区全体の進捗率は81.5%になるが、整備上とくに重要な部分でこれまで幾度と交渉を重ねてきたが、未だ地権者の理解を得るところには至っていない箇所がある。

整備基本計画の年次計画で示してはいたが、事業を進めるにあたって大きなステップが4つあり、第1ステップが史跡の公有化事業、公有化の目処がついた段階で、次の「基本設計」「実施設計」「整備工事」の流れになるが、今は第1ステップの公有化事業で足踏みしている状況である。今後も地権者と粘り強く交渉を続け、出来るだけ早く次のステップに上がれるような努力していく。

【委員】

竹林伐採を行うとのことであるが、前回に竹を伐採したのはいつ頃か。

【事務局】

これまでに伐採したことはない土地で、対象地は昨年度に公有化したばかりである。以前より竹が密集し荒廃していたので、遺構と見学に支障を来す恐れがあることから、今回緊急的に伐採を行うことになった。

【委員】

伐採した後の竹の生え方はどういう状況か。

【委員】

対象地の北側の空堀 I 周辺を、平成 23 か 24 年度の農林事業で人工林に侵入する竹林伐採を行って、その後、伐採を続けた結果、竹の生えるスピードと範囲は遅くなった。

【委員】

地元の史跡に対する盛り上がりがもう少し出てくれないかと思う。気になる点は、見学会が始まって以来、10 年間ボランティアをさせてもらった中で、後継者問題などがあり、地元が盛り上げるにはどのようにしたら良いのか、昨日のシンポジウムで痛感した。他のところを参考にし、もう少し検討しながら、地元は地元で考えていかなければいけないと思った。

【委員】

昨日のシンポジウムでも意見があったが、実際に歩く人や外部から来た人が見えやすいようなサインの設置や伐採方法など、行政サイドだけではなく、実際によく利用する地元の人々の意見を踏まえながら行ったらどうだろうか。

後継者問題も今後は深刻で、史跡の整備事業というのは遺跡を保存することが前提だが、見学会等を通じて市民の人々が参加しながら、同時に、それが人づくりになるような担い手育成になる事業を行わないと後に続かないと思う。

【委員】

昨日のシンポジウムで、久山町の江上さんの報告があったが、町内の小学生全員を首羅山に登らせている。勝尾城の頂上に登らせるのは、小学生の低学年は難しいかもしれないが、小学生の時から地域の文化遺産について学ばせることは大事である。将来、地域の担い手として育ていくような仕組みが必要である。

【委員】

ボランティアグループを如何にして育てていくかというのが非常に難しい。私も平成 5 年にボランティアを始めたが、その後新しい人は入ってこない状況であった。恐らく他のボランティアグループもそうだと思うが、構成メンバーの多くが、定年退職後の方がほとんどではないかと思う。どのようにしてグループを育成していけばよいか、それを見学会等に、どのようにして繋げていくかが課題である。

【委員】

昨日のシンポジウムの参加者の大多数が年配の男性で、若い人に浸透していないなど感じた。地元の若い世代が参加する工夫が必要である。例えば小学校行事で、バスを利用して市外に山登りに行くような遠足等があれば、地元の史跡を巡った方がよいと思う、例えば小学校低学年であれば葛籠城、高学年であれば勝尾城の頂上まで登るなど、学校教育と協力して行うことで、子供たちが地元に着着を持つことに繋がるようにしていけたら良いと思う。

【委員】

文化庁も最近では、史跡の整備を進めるにあたっては、保存事業プラス活用事業も力を入れているようで、観光的な要所も取り入れていく方向に変わりつつある。文化庁の補助だけでなく、国土交通省や観光庁の予算も考慮した方がよいし、最近では地元を活性化させるような取り組みに、文化庁は意欲的であるようだ。

(2) 今後の保存整備事業について

【事務局】

基本計画を決定した段階では、計画通り公有化が完了して次のステップで整備に進めて行くと考えてこの事業を着手したが、残念ながら今年度中に公有化を目指した中で、地権者の方に同意を得られない部分が多量なりともあり、その中で整備にあたって重要部分があったため、次のステップに行くことの庁内の事業合意が図れなかったものである。確かに公有化からできたところから事業を進めるというのも一つの考え方であるかと思うが、そのためには、先生方の意見にもあったとおり整備基本計画の見直しも必要になってくるので、もう少し時間を頂いて、現状に合わせた形での整備基本計画の見直しも含めて、今後の方針を整理させていただきたいと考えている。

したがって、来年度は先ずは公有化を継続していき、それと合わせてどうしても地権者から同意を得られない場合は、どういう形で整備を進めていくかという案を作り、示したいと考えている。

【委員】

葛籠城跡の公有化進捗図を見ると、主郭のところは大半が青（公有地）になっている。出来るところから形にしていけないと、これまで関心を持っていた方々も、高齢化が進んでいるため、新たな人を増やさないと先細りしてしまうのではないかと。

【委員】

史跡指定当時から20年たって今の状況を市民はどう思うのか。やはり今後展開できる筋道を残しながら事業を進めていかないとだめだと思う。何をやれて何をやれないかということを決めて、整理してやれるところで将来に向けた展望をある程度決める必要がある。

例えばボランティアや地元で協力している方々の後継をどう育てるかということは地元だけの問題ではなく、行政の手助けが必要になる。今

後どうやって進めて行くか、実際にどうしようもない場合もあると思うが、お金がないと出来ないという発想ではなく、どうしていか色々な知恵を出すことが大事である。

【委員】

まだ勝尾城の重要性が市民に広く伝わっていないような気がする。表面的には知っている方がいたとしても、見学会をやったとしても、参加者も減ってきている。恐らく、市民に対しての広報普及が足りていないので、もっと工夫して市民の理解を得て行かないといけないと感じた。

【委員】

担い手の養成は、生涯学習課やこども育成課などで、夏にキャンプなどをされていると思うが、その時に史跡を案内することが出来るのではないか。ただ山登りだけ、キャンプだけの目的で訪れた方々が、そこには歴史があるんだと目を向けることで、関心を持ってもらえると思う。

【委員】

久山町では先進的な取り組みをしているが、当初は遺跡の価値はまだよくわからない中で、本当に国の史跡になるのかと、周りが皆言っていたが、江上さんの頑張りや熱意によって、大きく遺跡が変わっていく原動力になった。勝尾城も地元や担当者の熱意があってここまでやってこられたと思う。公有化がうまくいかずスムーズに整備に着手できない所もあるが、それ以上に市が、この遺跡を今後どういう風にしたいのか、どう守って伝えて、整備していききたいのかを、もっと主張していただきたいと感じた。

【委員】

私としては皆さんが見に来たいという魅力的な見学場所にしてもらいたい。子供たちがこの場所に行けば、こんなものが学べる、というものを一つでも作ってもらえればと思う。

【委員】

これまで勝尾城に携わってこられた方々が高齢化している。これらの方々に早く成果をお見せできるように、出来ることから始めていくという方法を一緒に考えていけたらと思う。出来ることは協力するので、是非見えるような形で進む手立てをしてほしい。

【佐賀県】

全面的に計画内容を変える必要はないが、基本計画の見直しを含め前向きに検討してもらえればと思う。どう変えるのかどう対応していくのか、将来どうしたいのかを示して検討していけばよいのでないか。なんでもそうだが、史跡指定になった当初は盛り上がるが、それを続けていくことがなかなか難しい、人材の育成に関しても行政で後押しを検討してもらえればよいと思う。

【終了】